

議長（前原英石君） 日程第1 一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

4番 明和善一郎君。

4番（明和善一郎君） おはようございます。

通告しています2点について、村長のお考えをお伺いいたします。

まず、1点目として、小学校・中学校のグラウンドの防じん・砂嵐対策について、お考えをお聞きします。

ことし5月中に県内に暴風警報や暴風注意報が発令されたのは、田植えが始まった8日と12日の2日間でした。早朝より南からの強風が吹き荒れフェーン現象となり、暴風警報や暴風注意報にあわせ乾燥注意報が一日を通して出され、当日は小学校や中学校のグラウンドの土が舞い上がり、砂嵐となって風下に位置する仏生寺地区や竹内地区方面へ向かって吹きつけ、学校横の県道や小学校グラウンド横の村道では、目を開けておれない状態が長時間にわたり続きました。

過去に小学校の砂嵐により、グラウンド横の村道に設置されている縁石に沿って黄色い砂が大量に堆積した状態について、村としての対応についてお話を申し上げたところ、早速に防球ネット下部に防砂ネットを設置され対応されましたが、一定程度の効果は見られますが、根本的な対策とは言えず、今回の状態の発生を見たものであり、先進的に対策をとっている事例を参考に調査・研究を実施し、防じん対策を講じていくべきと思いますが、お考えはいかがですか。

ことしも中学校のグラウンドの雑草対策を中心にグラウンド整備が先日実施されましたが、そのときの業者さんに県内での防じん対策実施グラウンドについてお話を聞きしましたところ、隣町の立山町や富山市内の小中学校の幾つかの学校で人工芝や生芝を用いたグラウンドがあるということや、野球場を中心にスプリンクラーを設置し、散水による対応を図っていること等をお聞きしたので、先進事例として、村当局、村議会、学校関係者が一堂に会し研修を進められてはどうかとご提案を申し上げ、村長のお考えをお聞きします。

次に、2点目として、交通安全対策の考えについてお伺いいたします。

平成20年11月5日に県道富山上市線の舟橋地内で発生した交通死亡事故以降、村民の交通安全に対する意識向上が図られ、平成26年、ことしの3月18日に古海老江地区で発生した死亡事故まで、5年4カ月間続いていました交通死亡事故なしの記録が

残念ながら途切れてしまいました。

村内では、痛ましい交通事故・交通死亡事故をなくすため、村道の整備や歩道の整備、道路標識の整備等数々の対策が講じられてきましたが、なかなか交通事故をなくすことはできません。

交通事故の発生箇所を見てみますと、村道と県道の交差点では、幅員や歩道の整備状況が村道のほうが上回り、ドライバーの勝手な判断により、優先道路ではないのに一旦停止を怠り、事故発生を見ている状況があります。

このような交差点の再点検を実施し、交通標識をより見やすい状態にするための方策を関係機関と協議を進め、より安全・安心の道路整備・標識整備につなげていけないものか、村当局のお考えをお聞きします。

現在最も危険度の高い東芦原団地横の村道とオレンジロードの交差点や国重地内の公民館前の村道など通学路として指示されている交差点を中心に、早い時期の改善について村長のお考えをお伺いいたします。

以上、2点についてお伺いをいたします。

議長（前原英石君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 4番明和議員さんのご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、舟橋小中学校のグラウンドでは、強風による土や砂の飛散が散見されております。特にフェーン現象から高温で乾燥した強風が吹くときには、数メートルの高さまで砂ぼこりが飛散している状況がしばしば見られております。

こういった状況から、舟橋小学校では、今ほど明和議員さんも言われたわけでありませんが、近隣住宅への対策といたしまして、グラウンド北側へ防砂ネットを設置しております。その結果、一定の効果があつたものと理解しておるわけでありましたが、それで全てが解決しておるとは考えておりませんので、今後そういったことを含めまして、先進地と申しますか、そういったことを見まして、場所を見まして検討してまいりたいと思っております。

それでは、県内の市街地や住宅地に位置している学校ではどのように取り組んでおるかということでございます。1つには、薬剤散布によりグラウンドを締め固めていると。あるいはまた、表層土に飛散しにくい素材を用いている。あるいはまた、クレイ舗装とかダスト舗装という学校もございますし、また全面を人工芝、あるいはまた、天然芝に改修する学校も出ておるわけでありまして、こういった先進の事例もございますので、

私たちも十分そういった学校の環境を、子どもたちが十分運動ができるような、学習ができるような環境づくりに努めていくというのが、義務があるわけでありますので、議員の各位と、皆様とご相談を申し上げて、今後抜本的な解決をするように進めてまいりたいと、こういうふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、交通安全についての質問でございますけれども、舟橋村内での昨年1年間の事故発生件数は、人身事故1件、物損事故7件の計8件であったわけでありますが、昨年。しかし、今年5月15日現在では、人身事故3件、物損事故17件と大幅に急増しております。この要因といたしましては、利田地区に大型店舗が出店したこともありまして、村内を通行する車の量が増加したことによるものでないかというふうに推測しております。そしてまた、その主たる事故発生は、村内を通過する村外の方が起こしているという状況でもあります。

そしてまた、人身事故3件の内訳を見ますと、1月には舟橋交差点で信号無視による事故、3月には古海老江地内で、5年3カ月ぶりとなります交通死亡事故が発生しております。これは飲酒運転により自転車で田んぼに転落したものであったわけですが、後の1件はオレンジ・パーク付近で発生した、一旦停止を怠ったことによる車同士の接触事故であります。3件の事故は、いずれも運転者の交通ルール違反によるものと理解しております。

ただいま上市警察署管内では死亡事故多発警報が発令中でありまして、交通事故防止のためさまざまな取り組みが行われておるのでありまして、その事例を紹介させていただきたいと思ひます。

1つは、上市区域高齢者無事故コンクールであります。舟橋支部も本年度より参加しております。これは、各地区で行われている交通事故防止活動を紹介し、交通安全意識の高揚に努めるものでありまして、本村のホームページでも毎月その状況を紹介しております。

2つ目は、今月の広報にも紹介しておりますけれども、ふれあいボランティアによる75歳以上の高齢者宅巡回であります。これは、上市区域交通安全協会舟橋支部の女性部員の方3名と舟橋駐在所所長が村内218名の高齢者の自宅を訪問いたしまして、交通安全の意識を喚起するパンフレットうちわを手渡していくこととともに、反射材を靴やつえに張りつけをいたしまして、交通安全を直接訴えるということを行うものであります。

このほかにも、交通安全協会や関係団体の方々が地道な交通安全運動を日々続けておられるわけでありまして、本村といたしましても、村道稲荷学校線に平行いたしまして通学路の整備や道路の路側帯に青色塗装を行うことなど、交通安全施設の整備に努めているわけであります。

先ほど指摘ございました通学路にいたしましても、昨年そういった点検を行いまして所管の道路管理者、いわゆる県関係の方、それからまた、所管の警察署ですね、上市警察署の方も出ていただくとか、あるいはまた、保護者の代表の方も出ていただいて、そしてそういった確認をしながら、どのように改良すればいいのかということも記録に残っておるわけでありまして、常々そういった確認をしながら交通安全の意識高揚とともにそういった整備を、安全施設を整備していくということも大切でございますので、今明和議員さんから指摘があったとおりでございますので、今後とも怠りなくそういったことに努めてまいりたいと、こういうふうに思っております。

いずれにしましても、こういったことにつきましても、議員の皆様方の深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、私からの答弁にかえさせていただきます。

よろしく願いいたします。